

「発信する拠点として、『流灯ふれあい館』がオープンしたこと、東武動物公園駅東口通り線において、県道区間、町道区間の一部が、ともに事業認可を受けたこと、各小中学校普通教室等エアコン設置工事が予算化されたことなどは、未来へつながる新たな一歩を踏み出すことができたものと考えております。

また、昨年は、6月の大阪府北部地震、西日本をはじめ、広範囲に被害をもたらした7月の平成30年7月豪雨、9月の台風21号、北海道胆振東部地震（ほっかいどういぶりとうぶじしん）などの甚大な被害をもたらす自然災害の発生に加え、夏には例年になく猛暑になるなど、数多くの自然災害に見舞われた年でもありました。

地域経済の活性化や災害への対応については、杉戸町においても様々な取組を行っておりますが、私は、町政運営の重責を担わせていただく者

として、改めてまちづくりの重要さ、難しさを再認識したところであります。

私 はこれまでも、住まい、いままちづくりに向け、様々な取組を行ってきたところですが、今後、少子高齢化や公共施設の老朽化は急速に進んでまいります。

また、社会保障関連経費等の増大により、財政運営も厳しさを増すことが見込まれます。

特に、杉戸町の人口に目を向けてみますと、最新の推計では、2030年には町の人口が4万人を切るという推計が出ており、すべての町民が将来にわたり安心して暮らせる町を実現するためには、町の活力低下につながる人口減少問題の克服に向け、職員皆が知恵を出し合い、全庁を挙げて果敢に挑戦していく必要があると考えております。

現在、町では、今後10年間、杉戸町が目指すビジョンを示

す「第6次杉戸町総合振興計画」の策定に向け、町民アンケートやまちづくり町民会議を実施するとともに、平成31年度には具体的な計画案の策定を予定しており、平成31年度は、これまでの杉戸町とこれからの杉戸町をつなぐ節目の年でもあると考えております。

そのため、様々な課題の克服のために、現計画である「第5次杉戸町総合振興計画後期基本計画」の目標の達成を目指すとともに、これまでの取組を検証しながら、杉戸町の「将来」を考えていかなければなりません。

「強みを活かして夢描き、意志あるところに道があり、夢あるところに道開く」を肝に銘じ、課題の克服はもちろん、町の強みや魅力を生かし、4C（チェンジ、チャレンジ、コラボレーション、クリエイション）とともに、4D（ドリーム・ダイナミック・ディスカッション・ドウ）の基本

姿勢をもって、少子高齢化・人口減少等、大きな課題に正面から向き合い、大きな夢に向かって、謙虚に誠実に、そしてスピード感を持って果敢にチャレンジし、さらに全力で町政運営に取り組んでまい

る所存であります。

平成31年度 まちづくりの方針



2月14日(木)、杉戸町議会定例会（3月）の冒頭、古谷町長は平成31年度の施政方針と予算編成方針を表明しました。「施政方針」とは、これからの町政運営に向けて基本的な考え方と主な施策を示すものです。

今月号では、施政方針の概要と4月からの新年度で取り組む主な施策を紹介します。

※町長が表明した下記方針は、文章を一部要約しています。

問合せ 政策財政課 財政担当 内線272

昨

年を振り返りますと、わが国の経済は緩やかに回復しているとされており、雇用・所得環境の改善などが続く中、今後も緩やかな回復が続くことが期待されております。

政府は、東日本大震災からの復興・創生及び平成28年（2016年）熊本地震からの復旧・復興に向けて取り組むとともに、デフレからの脱却を確実なものとし、経済再生と財政健全化の双方を同時に実現していくとしております。

そのような中、平成30年度においては、私は職員と一丸となり、杉戸町の未来を切り開いていくために、毎日の小さな一歩を積み重ね続け、歩んできたという思いであります。

その中でも、杉戸宿をはじめとした町の魅力を内外に、

杉戸町が目指す未来へ向かって

